

黒川清登教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会会長 高屋 和子

黒川清登教授は、2023年3月をもって定年により立命館大学教授の職を退かれます。黒川清登先生は、筑波大学第三学群社会工学類社会経済システム専攻をご卒業後三井銀行（現三井住友銀行）に入行され、その後国際協力事業団（現国際協力機構〔JICA〕）に入構、その後横浜国立大学大学院で教鞭をとられ、2013年4月に立命館大学経済学部に教授として着任をされました。本学部に着任されてからは、開発経済学、国際開発プロジェクト・マネジメントを担当されるとともに、海外フィールドワーク・プログラム（タイ）を担当されるなど、途上国開発や異文化理解・交流にご尽力いただきました。また、大学院ではMPED（Master Program of Economic Development）や博士後期課程で英語による研究指導を担当されるほか、入試・広報、フィールドワーク引率などコース運営にも尽力されるなど、学部・研究科のグローバル化に多大なご貢献をいただきました。

加えて、滋賀県草津市や甲賀市において行政経営改革や地域振興に関わる委員を務められ、またその地域とのつながりをもとに、学生・院生を地域振興の現場に誘い、リアルな現場での学びや研究を促進してこられ、地域連携・地域協力の面でも大変ご尽力下さいました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

その他、学内役職として、2015年に副学部長、2021～2022年には大学協議会委員を務められ、学外での学会活動では、国際開発学会、日本地域学会、日本経済政策学会、日本農業経済学会、日本評価学会、国際忍者学会などに所属され、国際開発学会や日本地域学会では学術大会の実行委員長を務められるなど旺盛な研究活動とともに、活動の運営にも積極的に貢献されています。

立命館経済学会では、そのご功績をたたえ、そのお人柄に敬意を表し、『立命館経済学』において退任記念論文集を編纂、発行することといたしました。

黒川先生のご研究については、私ではそのご紹介の任が果たしきれませんが、地域活性化や途上国開発、貧困削減、農村開発、防災ビジネス等々、また研究対象地域についても、アフリカ地域、東南アジアなど海外のみならず、日本の滋賀県を中心とした地域活性化・地域振興についてもカバーされるなど、広く多様な視点によるご研究を積み重ねてられています。黒川先生は、そのご研究成果をご自身の研究業績としてだけでなく、上述のように学生、院生の教育・研究指導にも遺憾なく発揮され、教室や研究室を飛び出し、リアルな現場を体験させ、現実に即した分析を指導してこられました。こういったご指導の成果は、担当されている演習クラスから経済学研究科に、博士前期課程から引き続き後期課程へと進学する院生を育成されてきたことにも表れており、まさに黒川先生のアクティブで熱心なご研究と教育の賜物であると言えます。

黒川先生は2023年度4月以降も特任教授として、本学の教育・研究を引き続き支えて頂けるとうかがっております。先生はご壮健で、研究・教育への情熱は益々盛んであるようにお見受けしております。今後とも後進へのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。先生の益々のご健勝とご活躍を祈念し、本記念号刊行にあたってのご挨拶とさせていただきます。